

福岡翔学館だより

2011.10.25 発行

行事予定

10月 28日 動植物園
31日 第1回レポート締切
11月 4・7日 校外模試

毎週火・木(13:30~15:00)に
国語・英語の受験対策講座を行っております。

■ スポーツの秋(体育課外)

10月14日は体育館で卓球・バドミントン、21日はボウリングで
いい汗を流すことができました。

生徒の感想

久しぶりに体を動かすことができ、とてもすっきりしました。
バドミントンや卓球をやってみて、毎日やっていないと上達することは
難しいと思いました、機会があったらまた行きたいです。(Kくん)

ボウリングは生涯2回目で、全部ガーターになるのではと心配だった、
はじめはガーターばかりだったが、球速40km/h台はダントツだった。
何度か投げるうちに、段々と倒れるピンが増えていき、ついにストライクをとった！
あまり力を入れすぎると簡単にガーターになってしまうので、力を抜くとよいと分かった。
楽しかったが、もう一度やりたいかというとうそうではなかった。(Tさん)



わからない事があったら、
気軽に質問してください！
できる範囲で答えます…。



福岡翔学館高等学院にはたくさんの
マトリョーシカがあります。
ロシアのお人形ですが、毎年川原先生が
チェルノブイリ原発事故の影響を強く
受け、今も特別医療を必要としている
ベラルーシを訪問して買ってきてくれて
います。
以下、東欧にあるベラルーシ訪問の感想
です。↓↓↓↓↓



ベラルーシの子どもたちが福島
原発事故のイメージを絵で描いたものです。

ハイ
ウェイ
の様
子



ベラルーシ共和国(ミンスク・ブレスト・ゴメリ)の旅！！

9月25日(月)～10月4日(火)までNPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク主
催の第11回医療検診派遣団に随行しました。今年で3回目の参加なので落ち着い
てあわてることなく行動することができました。

ミンスクとブレストでは、日本医科大学教授・清水一雄先生の甲状腺内視鏡手術は
成功し、現地医師らに甲状腺手術の参考となりました。ブレスト州内分泌診療所
においては、50人ほどの細胞せんしゅを行い、臨床検査技師・村瀬先生による検査も
無事終了しました。

ベラルーシ共和国は主に面積は約21万平方キロメートル(日本の半分程度)人口
は約970万人、首都はミンスク、主要産業は鉱工業・農林水産業です。日本との時差
は6時間です。とてもゆっくりと時間が流れ、あわてるクセのついている私にとっては、
のんびりとできました。

ベラルーシ共和国とロシアではメトロ(地下鉄)にも乗ることができ、とても貴重な体
験をすることができました。

川原 秀之

甲状腺ガンの検査を行っています。
事故から25年経った今でもそれは変わっていない
のですね。



福岡翔学館高等学院

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目5-11 コスギビル第一5F
TEL 092-433-0451

URL: <http://www.fs-h.jp> E-mail: info@fs-h.jp